

# 8月のまちの話題

## 厚幌ダムで定礎修祓式・定礎式

高橋知事や宮坂町長ら関係者約300人が出席

8月8日、幌内地区の厚幌ダム建設工事敷地内で「厚幌ダム定礎修祓式・定礎式」が行われ、北海道や厚真町などの行政機関、地元関係者および工事関係者など約300人が出席しました。定礎修祓式では、厚真神社宮司による祝詞奏上の後、関係者らが玉串を捧げました。

続いて行われた定礎式の前には、幌内神楽保存会による幌内神楽が披露されました。定礎式では、高橋はるみ知事と宮坂町長による式辞や木島昇悦胆振総合振興局副局長による工事報告の後、岡部泰範厚幌ダム建設事務所長の先導で、鶴川消防總保存会の木遣りに続いて、安藤ハザマ・岩田地崎・田中特定建設工事共同企業体職員により礎石が搬入され、高橋知事が定礎宣言を行いました。宣言後、各儀式が行われ、最後に埋納の儀としてCSG投入ボタンが押されると、礎石の上にCSGが投入され、無事に埋納が行われました。

また、定礎式後、会場を総合福祉センターに移して「厚幌ダム建設工事の着工を祝う会」が行われ、関係者らが着工を祝いました。\*

※厚幌ダムの概要や定礎式の様子などについては、広報10月号でご紹介します。



定礎の儀で「鎮定の儀」を行う高橋はるみ知事ら



礎石の埋納が行われ、万歳三唱を行う参列者

## 迫力ある工事現場にビックリ！厚幌ダム建設工事現場で見学会

建設工事の最盛期を迎えている厚幌ダムで8月中、各団体や町主催による工事現場見学会が行われました。1日は厚真町子ども会育成連絡協議会主催の見学会が行われ、小中学生や教職員、役員など約40人が参加。はじめに、担当者からダム建設工事の概要について説明を受けた後、建設現場へ赴いた子どもたちは、間近で見る工事や車両のスケールの大きさに驚きながらも、熱心にメモを取ったり質問をしたりなど興味津々の様子で見学を行っていました。

また、22日には町主催の見学会が行われ、約70人が参加。工事現場を望む展望台等で説明を受けた後、建設現場で工事車両等の説明を受け、見学を行いました。



大型ダンプの前で記念撮影



熱心に説明に聞き入る参加者



## 盆踊りにゲームや花火 楽しい七夕会

8月5日、さくら保育園（金光充園長）で七夕会が開催されました。

色とりどりの浴衣や甚平を着た園児たちは、手作りのカンテラを持って園長先生の家までちょうちん行列を行い、園庭でお父さんやお母さんと盆踊りを踊りました。

その後、園児たちは、園内でキャラクターのお面やおもちゃなどが当たる楽しいゲームをしたり、花火が当たる肝だめしなどをしたりして七夕の夜を楽しんでいました。



## 日頃のご利用に感謝 こぶしの湯あつまで謝恩フェス

8月30日、こぶしの湯あつまで、あつまスタンプ会主催による「こぶしの湯あつまで謝恩フェスティバル2015」が開催されました。

会場となった敷地内の芝生スペースでは、スタンプ会や商工会、商工会青年部、町内の方々などによる縁日コーナーのほか、軽トラ市やバーベキューコーナーが行われ、小学生以下限定のくじ引きやビンゴ大会、じゃがいも詰め放題、ラムネ・コーラ等の早飲み大会などが企画され、多くの来場者でにぎわっていました。



誰が一番早いか？コーラの早飲み大会



冥福を祈り献花を行う参列者

## 戦後70年・平和への誓い新たに「戦没者追悼式」

厚真町戦没者追悼式が8月28日、総合福祉センターで行われ、遺族や来賓約50人が参列し、黙とうや献花などを行い、戦禍の犠牲となった御霊の冥福を祈り、恒久平和への誓いを新たにしていました。

式では、宮坂町長が「歴史に謙虚に向き合い、平和の尊さ、平和を堅持する知恵を次の世代にしっかりと継承していかなければならない」と式辞。町遺族会の加勢敏和会長は「戦後70年という節目にあたり、改めて過去の悲惨な戦争から学んだ教訓と平和の尊さを次の世代に語り継ぐことが私たちの務め」と謝辞を述べていました。

## 食中毒に気をつけて 食品衛生協会が啓発活動

8月3日、苫小牧地方食品衛生協会の山本会長らが役場を訪れ、食品衛生強化月間の啓発活動を行いました。当日は、同協会の山本英行会長と下司義之厚真支部長、藤井仁苫小牧保健所生活衛生課長が来庁し、宮坂町長へ食中毒の発生予防などを呼びかけました。

毎年8月は食品衛生強化月間となっており、各地で食中毒予防等の啓発活動が行われています。

## 食べて・踊って楽しもう 商工会主催盆踊り

8月14日と15日の両日、厚南会館と表町公園を会場に町商工会（寺坂文秀会長）主催の盆踊りが行われ、お盆のひとときを楽しもうと多くの人が来場しました。

両日とも、会場ではビアガーデンや焼き鳥、焼きそば、フライドポテト、フラッペなどの販売ブースが設けられ、親子連れが盆踊りを楽しむ姿が見られました。



# 気象台からの 防災メモ

【問い合わせ先】  
室蘭地方気象台  
(☎0143-22-4249)

## 大雨による気象災害から身を守りましょう

盛夏から秋にかけては、大雨が降りやすくなり、いろいろな災害が発生します。

大雨による災害は、地盤が緩んで発生する土石流やがけ崩れなどの「土砂災害」、短かい時間に局地的な大雨による低い土地での「浸水害」、河川の増水や氾濫といった「洪水害」があります。

気象台では、大雨による「土砂災害」や「浸水害」のおそれがある場合に「大雨警報・注意報」を、洪水による災害のおそれがある場合に「洪水警報・注意報」を発表します。

また「警報・注意報」では、本文の中で、どんな災害に警戒・注意すべきかを期間とともに記述します。テレビやラジオなどで発表を知ったときには、気象台ホームページなどで内容を確認し、市町村が発表する避難情報などにも留意しましょう。



大雨警報が発表されている中で、土砂災害が発生する危険性がより高まったときには、「土砂災害警戒情報」を発表します。この場合はより一層の警戒が必要です。

市町村が配布する防災マップや手引きなどに日頃から目を通し、自宅の近くに川や傾斜地があるかなどを確認して、住まいの周辺に潜む危険を十分に理解しておき、警報が発表された場合には、警報の種類に応じた適切な対応をとってください。

普段の備えと、警報・注意報などの気象情報を上手に使うことで、気象災害から身を守りましょう。

## 登記に関するQ&A

### ◆第3回「誰が相続人になるの? (2)」

**Q1** 先月父が亡くなりました。実は父は再婚で、前妻との間に道男さんという子がいます。前妻に引き取られ父の戸籍から抜けていますが、それでも道男さんに相続権はあるのでしょうか?

**A1** 前妻との間の子、道男さんも相続権があります。認知した子、養子縁組している子も同様に相続権があります。

**Q2** (Q1から数年後) 道男さんと話し合いをするのは気が引けて、手続きをせずにいたところ、道男さんが亡くなってしまいました。道男さんには5人の子どもがいたようです。どうなるのでしょうか?

**A2** 道男さんに代わって、道男さんの妻と、道男さんの5人の子ども全員が相続権を引き継いでいます。相続手続きをするためには、相続権のある者全員の間で話し合いをする必要があります。

### ■問い合わせ先

札幌法務局苫小牧支局 (☎0144-34-7403) [ホームページ <http://houmukyoku.moj.go.jp/sapporo>]

札幌司法書士会苫小牧地区 (☎0144-33-8885) [ホームページ <http://www.sihosyosi.or.jp/>]

札幌土地家屋調査士会 (☎011-271-4593) [ホームページ <http://www.saccho.com/>]

## まちの話題 plus

### 冬の北海道で災害が発生したら… 北海道版HUG(試行版)地域研修会



話し合いながら避難者の配置を決める参加者

冬季間に北海道で大規模災害が発生した場合の避難所運営シミュレーションとして北海道が作製した北海道版HUG(避難所運営ゲーム)試行版の地域研修会が8月19日、総合ケアセンターゆくりで行われました。

当日は、町防災マスターや町職員など14人が出席。参加者は2グループに分かれ、町防災アドバイザーの定池祐季さんから説明を受けながらHUGを行いました。研修を主催した北海道総務部危機対策局危機対策課の國田博之主査は「この北海道版HUG試行版は、定池先生や福祉・ボランティア団体、建築関係の方々に協力していただき今年7月末に出来上がったばかり。今後は道東・道北方面でも研修会を実施する予定で、皆さんからご意見をいただいて改良していきたい」と話していました。

### 小・中学生が英語でスピーチ発表

町英語教育推進委員会主催による「厚真町小学生英語発表会兼中学生英語暗唱胆振予選会」が8月10日、総合ケアセンターゆくりで行われました。小学生の部では、3組4人の小学生が英語で自己紹介を、中学生の部では、10人の生徒が胆振英語暗唱大会への出場権獲得を目指して英語の暗唱を行いました。

審査の結果、1位に金澤美玖さん(厚真中2年)、2位に長門実空さん(厚南中2年)、3位に大塚葉那さん(厚真中3年)が選ばれました。3人は、10月24日に登別市で開催される胆振大会へ出場します。



出場者全員で記念撮影(中学生の部)

### 現存する戦争遺跡を巡る見学会

8月9日、町教育委員会主催の戦争遺跡見学会が行われ、町内外から16人が参加し、厚真町と苫小牧市に現存する戦争遺跡を見学しました。

第2次世界大戦後半、アメリカ軍の北海道に上陸侵攻を防ぐため太平洋岸に多くの防衛施設が作られました。町内でも、浜厚真や厚和、共和、鹿沼地区にトーチカや戦車壕、塹壕が構築され、今も一部現存しています。当日、参加者は町学芸員から解説を受け鹿沼と共和のトーチカを見学。その後、昭和20年に浜厚真で空襲を目撃した山田稔さんから当時のお話を聞き、戦争の悲惨さと平和への思いを新たにしていました。



鹿沼トーチカ前で学芸員の解説を聞く参加者

### 厚南中学校2年生が勤労体験

8月20日から21日の2日間、厚南中学校(村田宏文校長)の2年生が町内や苫小牧市内の事業所等で勤労体験学習を行いました。

これは、職業体験を通じて適切な勤労観(職業観)を養い、礼儀や言葉遣いなどの社会性を身につけ、自己実現のために必要なことは何かを考える態度を育てることを目的に実施しているもの。役場で広報の仕事を経験した清野綾花さんは「取材や記事づくりなど、普段できないような貴重な経験(せいのか)をしました。『難しい言葉をわかりやすく伝えるのが広報の仕事』という言葉が印象に残りました」と感想を話していました。



勤労体験中の同級生取材する清野さん